

平成30年度 学校評価結果

教育目標

『正しく 仲よく 違しく』

未来を切り拓く、調和のとれた生徒を育成する

年度末の最終評価

| | |
|---------|---|
| 自己評価 | <p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none">・国立教育政策研究所数学の研究を軸に、主体的に学ぶ生徒の育成と学力向上を目指して授業改善や小中一貫教育の推進をすすめた。数値でみえる結果としての学力は、課題を大きく残している。・充実した行事への取組を通して、心や体をバランスよく育成することは概ね達成することができた。転入した外国人生徒の学校生活や人間関係は順調で、多様な価値観を認め合う学校風土は醸成している。・学力面に関して、研究の成果を他教科に生かして授業改善や教員の指導力向上を図らねばならない。生徒につけたい具体的な力を全教職員が共有し、日々の実践をすすめる。 |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒数が減少して小規模となり、部活動等は少人数で困っていると思う。頑張っている生徒が多いのでしっかり指導していってほしい。・地域でみる生徒は、素直でまじめな生徒が多い。・授業をしっかり受けさせて、家庭学習も習慣づける指導が大切だろう。学校運営協議会や地域で、協力できる事や要望があれば言ってもらい協力していきたい。 |

学校関係者評価の評価日・評価者

| | 評価日 | 評価者 |
|------|----------------|---------|
| 中間評価 | 平成30年10月23日(火) | 学校運営協議会 |
| 最終評価 | 平成31年2月20日(水) | 学校運営協議会 |

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

授業改善を通して、未来を切り拓く確かな学力の定着を図る。

具体的な取組

- ・授業規律、授業のルールを教職員・生徒で徹底する。

始めと終わりのあいさつは、イスを入れて、きちんとあいさつする。

授業の始めに「今日の目標」を提示し、授業の終わりに「今日の振り返り」を行う。

配布したプリントは、その場でファイリングさせる。

- ・授業分析シートを活用して、授業改善を行う。
- ・研究授業を実施する。(6月教科別研修、11月学年別研修、2月合同研修)
- ・定期テストに活用問題を出題する。
- ・「学習の手引き」を作成し、生徒が見通しを持った学びができるようにする。

- ・教科会を積極的に行い、常により良い授業改善に努める。
学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査の結果等を分析・活用して、授業改善をすすめる。
- ・家庭学習プリントの実施、指導、基礎テストの実施により、家庭学習習慣の定着を図る。
5科の実施、終学活時に配布、翌朝回収、未提出者の確認と手立て、基礎テストの実施
- ・授業内でも、家庭学習につながる課題を積極的に実施する。
- ・朝読書に継続して取り組む。
- ・夏季休業中・定期テスト前の学習会を計画的に実施する。
- ・総合的な学習の時間では、言語活動を生かした発表活動等を行うことにより表現力を培う。
- ・指導と評価の一体化の研究を一層進める。
- ・9年間を通した学力の向上をめざした小中一貫教育を推進するため、合同研修を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査の分析結果。
- ・校内研究や教科会による授業改善の取組。
- ・小中合同研修会の実施状況。
- ・生徒に対する授業アンケート（生徒による授業評価）の結果。
- ・生徒及び保護者アンケートの結果。「毎日家庭学習プリントに取り組んでいますか」「家庭学習に取り組んでいますか」「読書の習慣が身についていますか」

中間評価

各種指標結果

- ・各種調査の結果からも明らかのように中低位層が多く、そのため全体の平均点が低く、全市や全国と比較した場合の指数は 100 に対して、学年・教科で差はあるが 77~97 といへん厳しい状況にある。
- ・数学科の国立教育政策研究所教育課程研究センター指定校事業の取組を軸にして、校内授業研究をすすめている。ここ数年取り組んできている授業分析シートを活用した授業改善にも取り組んでいる。
- ・生徒・保護者アンケートは、重要度と実現度に答える形式にして、意識の把握・分析にも努めている。
- ・アンケート項目「家庭学習プリントに取り組んでいますか」に対して、生徒の肯定的回答（よく出来ている・大体出来ている）は 78%，また、「授業を理解できていますか」への肯定的回答は 79%であるが、「家庭学習に取り組んでいますか」に対する肯定的回答は 73%であった。どの項目も重要度は 90%を超えており、実現度になると低くなる。
- ・「読書の習慣が身についていますか」に対する生徒の肯定的回答は、55%であった。学校での朝読書には、ほとんどの生徒がよく取り組んでいるが、家庭で読書をしない生徒が多い。

| | |
|------|--|
| 自己評価 | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着を目指して、毎日の家庭学習プリントに取り組ませ、出来ていない生徒は学校で指導、支援して必ずやり遂げさせるようにしているが、定着しない生徒が多い。 ・家庭学習の定着ができつつある生徒もいるが、自分で計画を立てて学習するのが苦手で、家庭学習の時間が短いといった結果となっている。家庭学習プリントだけでなく、授業と一体化した家庭学習課題の工夫が必要である。 ・全国学力状況調査や学習確認プログラムは全市平均に及ばず、学年・教科差が大きい結果となっている。中低位層がたいへん多いので、基礎基本の定着への取組が必要である。 ・授業や定期テストに記述式問題を出題するなど、全教科で意識して取り組んでいるが、数値とし |
|------|--|

| | |
|-----------------|--|
| | <p>ての成果はあがっていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に3年生は、学校祭での自主的な活動や発表の様子、部活動での活躍等から、仲間と協力したり努力を積み重ねてやり遂げたりする喜びを実感している生徒が多く、これらの自信や喜びが自己肯定感を高め学習意欲の向上につながっていると考えられる。 |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学科の研究成果を全校に広げていく。例えば基礎基本の定着の取組としての3分間テストの自教科バージョンの作成・活用や授業と家庭学習を一体化する取組等、各教科で工夫・改善をすすめる。 ・学力向上実践推進事業の指定を活かし、小中一貫教育の推進と授業改善をより図っていく。教員の授業力向上のため、授業分析シートの継続と効果的な活用を工夫する。 ・授業をはじめとして様々な面で生徒の活躍の場を増やし認めながら、理解を細かく確認し、個別指導を充実させていく。多面的な指導を心がけ、学力向上を図る。 ・図書館教育の推進に努め、朝読書に継続して取組み、教科での図書館活用やビブリオバトルの取組等をとおして、読書への関心や意欲を高めていく。 |
| 学校 関係 者評価 | <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科における後期の授業改善と学力向上について、教科ごとの取組と個々の教員の取組と指導力の向上状況 ・小中一貫教育の推進、学力向上実践推進事業等における取組の分析 ・図書館教育の推進にむけた具体的な取組 |

最終評価

| | |
|------|---|
| | <p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科会での学力分析や授業改善をよりすすめることを全体化して取り組んだ。授業改善シートを活用して、つけたい力を明確にして授業に取り組み、ふりかえりを通して次の授業改善をすすめた。 ・小中合同研修会を本年度は3回開催した。児童生徒の実態と課題についてグループ討議をすすめ、ブロックの教職員での共通理解がすすんだ。ブロック三校校長会を月1回のペースで定期的に持ち、教務主任を中心とした主任会での交流もすすんだ。 |
| 自己評価 | <p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態分析と教職員の共通理解はすすんだが、つけたい力の明確化とそのための具体的な取組を教科会に任せてしまった状況があり、組織化された学力向上の取組には至っていない。 ・学校全体として、毎日の家庭学習課題の取組は年間を通じて展開できた。与えられた宿題はほとんどの生徒が取り組めるようになっている。 ・小中一貫教育における授業の交流が、時間的制約を主な原因となり十分とはいえない。 |

| | |
|---------|--|
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習習慣の定着と学力向上に向けて、学習課題の工夫や授業と家庭学習を繋げる内容への改善を図る。数学科の研究成果を各教科に生かしていくための年度当初からの計画に努める。 ・生徒につけたい力をより具体的に明らかにし、教職員の授業改善の意識を高め日々の授業の充実を図りながら、細目なふりかえりの実施と授業改善をすすめる。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善は個々の教員ごとの開きがあり、その結果、学習確認プログラムの結果も学年や教科による差が大きい。学力状況はたいへん厳しい。 ・授業改善や指導力向上の取組を個の教員に帰することなく、研修の機会を学校外にも求め、組織的に学力向上に取り組む。 |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会は、小学校では総合的な学習の時間等で地域の人々と共に学校に協力しているが、中学校の学習にはなかなか関わる機会がない。どのようなことが可能なのか必要なのかアイデアを出し合っていきたい。 |

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

| | |
|--|--|
| | <p>重点目標</p> <p>人権を尊重し、生命の大切さや人の痛みがわかる心を育て、自尊感情が豊かな生徒の育成を目指す。</p> <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導の3原則『挨拶・時間・掃除』を通して、<u>規範意識</u>のさらなる育成を図る。 ・生徒会活動をより活性化させ、生徒同士の絆を深め、生徒の<u>自己有用感</u>を向上させる。 ・いじめ防止に向けた取組指針を徹底する。 ・チャレンジ体験やファイナンスパークの取組を通して、キャリア教育を推進する。 ・人が環境を変え、環境が人を育てるなどを意識した校内環境整備に努める。 ・道徳授業における副読本の使用、持ち回り授業の実施等による指導の充実を図る。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者アンケートの結果。「挨拶がしっかりとできていますか」「相手の気持ちを考えて行動していますか」「ルールを守ろうとしていますか」 ・道徳授業の実施状況と生徒の振り返りや感想等の活用に関する教員の認識状況。 ・チャレンジ体験やファイナンスパークに関するアンケート結果。 |
|--|--|

中間評価

| | | |
|-------------------|---|-------------------|
| | <p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「挨拶がしっかりとできていますか」「相手の気持ちを考えて行動していますか」「ルールを守ろうとしていますか」に対する肯定的回答が、生徒 85%・88%・89%，保護者は 75%・85%・81%であった。 ・道徳の授業に関して、全学年で副読本を活用して、評価についての研修もすすめ、計画的に授業も実施している。 | |
| | <table border="1"> <tr> <td>分析 (成果と課題)</td> </tr> </table> | 分析 (成果と課題) |
| 分析 (成果と課題) | | |

| | |
|---------|---|
| 自己評価 | <ul style="list-style-type: none"> 挨拶や行動、ルールを守ることについて、生徒のその重要度への認識は高い。実現度になると自分の意識の高さからか、肯定的回答率は下がる。また保護者は生徒の評価基準よりも厳しい目でみていることが浮かび上がっている。 道徳授業に関しては、計画的な研修や各学年での実施をすすめながら、評価を本年度出していく方向ですすんでいる。新要領実施に対応してすすめているので、評価に対する教員の認識は深まっているが、より研修が必要である。 |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジ体験やファイナンスパークは、事前学習に取組んでいるが、今後の実施や事後指導を通してキャリア教育を推進していく。 道徳に関して、特に評価の在り方について研修を深めていく。 生徒会活動等のより活性化を通して、生徒の規範意識や自己有用感を高める取組をすすめる。 |
| | <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会本部役員を中心とした生徒会活動の状況 道徳に関する研修の内容や教員の認識状況 |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>あいさつができる生徒を育てるために、中学生からあいさつするのを受けとめるような取組方等も考えられる。いつも大人から声を掛けるだけでなく、自主性を育てる関わり方を考えていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 西陵祭（体育の部・文化の部）は、生徒が一生懸命にがんばっていてよかったです。保護者の参観も増えた。しかし、体育祭を見ると、生徒の数が少なくなったので、少しさびしい気もしました。 地域行事に中学生がたくさん参加できるよう協力をお願いしたい。 |

最終評価

| | |
|------|--|
| 自己評価 | <p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会本部は新しい世代となり、責任感と自覚を高めてよく取り組み、各種行事も充実したものを作りあげることができた。 道徳に関する研修や教員の認識が高まった。特に評価に関して校内研修も実施し、学年会での話し合いも持つことができ、教科化に向けて教員の意識の深まりがみられた。 |
| | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動はここ数年間での取組が安定し、内容も充実したものになっている。 相手の気持ちを考えて行動していると思っている生徒は多いが、実際の行動に結びついていないケースもみられる。 道徳の授業は計画的に実践され、評価についての研修もすすんだ。 |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業の充実を図り、生命の大切さや人の痛みがわかる心を育てる。 生徒会活動をはじめとしたところで、個々の生徒が活躍できる場面やそれを教員が認める機会を大切にして、自尊感情が豊かな生徒の育成を目指す。日常の声掛けや褒めることの実践を積み重ねていく。 |
| | <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 自尊感情や自己有用感の低い生徒は、学力的にも厳しい状況にある者が多い。授業改善をすすめるなかで生徒が生き生きと過ごせる時間を生み出したり、学校生活のさまざまな場面で生徒が |

| | |
|-----------------------------|--|
| | 活躍したり認められたりする事を、意識的にたくさん作っていくことが必要である。 |
| 学校 関 係 者 評 価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事や部活動など生徒はよく頑張って活動している。 生徒、保護者アンケートの結果をみると、やはり保護者の評価は生徒の評価より厳しい見方になっていることがわかる。子どもは出来ていると思っていても、大人にはそう見えにくいだろう。 地域行事に多くの生徒が参加できるように、部活動等との調整を今後すすめていければと思う。 |

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

| | |
|--|---|
| | <p>重点目標</p> <p>生徒自らが健康で豊かな生活を実現するために、必要な知識と態度の育成を目指す。</p> |
| | <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に部活動へ参加することにより、体力と健康管理能力の向上を図る。 集団的な活動や身体表現を通じて、コミュニケーション能力を育成する。 保健だより等での生徒及び保護者啓発により、基本的な生活習慣を確立させる。 防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室を継続して実施し、正しい知識と自律的な行動ができるよう指導する。 性に関する教育を継続して実施し、命を大切にする心の育成を図る。 |
| | <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒及び保護者アンケートの結果。「起床・食事・就寝など時間を守っていますか」 部活動への参加率や各部活動の活動状況。 防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室等の実施状況と感想。 |

中間評価

| | |
|--|---|
| | <p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート項目「起床・食事・就寝などの時間を守る態度が身についていますか」に対して、肯定的回答は、生徒 71%、保護者 51%であった。 野球部と陸上部は入部予定者を含めて部員数不足のため、本年度新入部員の募集を停止した。部活動への入部率は、1年生 90%、2年生 62%、3年生 80%であり、多くの生徒は部活動に所属している。 ラグビー部は、市内大会準優勝・近畿大会出場等の優れた結果を残しているが、どの部活動も顧問の指導のもと熱心に活動している。 非行防止教室について、生徒は熱心に取り組めた。休日参観に設定して、保護者も参加しやすいように実施したが、保護者参加は少なかった。 |
|--|---|

| | |
|--------------|---|
| 自己 評 価 | <p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の運営や指導は、部活動規定や部活動ガイドラインに沿って適切に行われている。生徒数の減少、部員不足に伴う募集停止や来年度以降廃部予定等の現状に沿った対応をしている。 生徒の携帯所持率は高く、それに伴う使用時間の長さは、これまで同様に大きな課題である。 部活動に休みがちな生徒が一部出てきている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上に関わる家庭学習指導と合わせて、生徒の基本的生活習慣の安定を目指し、健康管理能 |
|--------------|---|

| | |
|---------|---|
| | <p>力を高める取組が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動を休みがちな生徒や保護者への指導や連絡をしていく必要がある。 ・保健だよりを有効に活用するなどして、基本的な生活習慣の確立にむけた指導を継続的・日常的に行っていく。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目の総合的な結果と分析 ・部活動の活動状況と個々の部員生徒の様子 |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動で良い成績を残してくれているのは地域にとっても嬉しいことで、広く広報してほしい。 ・生徒が地域行事等に参加しやすくするため、学校との日程調整等の連携を深めていくことが必要だろう。生徒の健全育成のために、地域と学校が協力することがいろいろあるのが望ましい。 ・生徒数が少なくなって、それぞれの部活動がどのように活動できているか心配だ。いくつかの部活動がなくなっていくのは仕方ないだろう。 |

最終評価

| | |
|---------|---|
| | <p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果で「起床・食事・就寝など時間を守っていますか」について、生徒・保護者とも実現度の低さが目立った。 ・部活動は新チームになったことに伴い2年生の意欲や責任感が高まり、よく活動できている。ガイドラインを守りながらの練習日程調整に顧問はよく努力している。 <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室は計画とおり実施し、性教育は体験も含めた学習を行い、生徒にとって大切な学習になった。 ・ほとんどの部活動は、顧問の熱心な指導の下、意欲的に活動できている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立のため、保護者への働きかけを工夫して有効なものにしていく必要性が高い。保健だよりも十分に活用して、学級における終学活等の時間を活かして、生徒の生活安定を図る指導を充実していく。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室等は年間計画に基づき実施でき、生徒は熱心に取り組めた。保護者参観の機会ともしたが参加が少なかった。 ・部活動指導の充実のため、顧問教員の直接指導の時間を確保する学校運営をよりすすめる。 ・食事や家庭での生活の安定のために必要な情報や知識の提供を工夫していく。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビー部を中心に部活動をよく頑張っている。優秀な結果は広く広報してほしい。 ・性教育の取組内容等を聞くと、引き続き充実した内容ですすめていってほしい。 ・保護者の薬物乱用防止教室等への関心を高める工夫が必要だが具体策はなかなか難しい。 |
| 学校関係者評価 | |

(4) 学校独自の取組

重点目標

小中一貫教育を推進する。

具体的な取組

- ・三校校長会や小中連携会を定期的に開催し、ブロック内の情報交換や取組の検討・企画調整を行う。
- ・学習確認プログラム、全国学力学習状況調査結果を分析し、課題を明らかにして有効活用する。
- ・小中合同研修会の開催を通して、教職員の資質・能力の向上に努める。
- ・ブロック各校の研究授業に参加し、授業研究を推進して指導力の向上を図る。
- ・中学校授業体験や学校紹介等、中学生と小学生の交流の取組を進める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・小中一貫教育の推進に係る主任会議や合同研修等の実施と内容、教職員の認識状況。
- ・授業研修会の実施と小中交流の取組。
- ・小中一貫した学力分析の結果を生かした取組の改善。

中間評価

各種指標結果

- ・三校校長会を月1回のペースで定期的に開催して小中一貫教育の推進を図っている。小中連携会議(教務、研究、生徒指導)は必要に応じてもっている。
- ・全国学力状況調査やジョイントプログラム・学習確認プログラムの結果分析を共有した。
- ・夏季合同研修会にて児童生徒の実態把握に関わる全体研修を行った。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・三校校長会は定期的に持てているが、連携会議の設定が難しい。しかし、小中主任の連携や交流は深まっており、取組の企画運営の中心となっている。
- ・合同研修会で進路について取り上げ、9年間で児童生徒を育てる教職員の意識が高まった。
- ・PTA特別委員会による小中一貫教育校の創設に向けた取組がすすんでいる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後的小中一貫教育に関する取組計画を全教職員で共有し、取組の質的向上を図る。
- ・児童生徒が交流する行事に計画的に取り組み、児童生徒の自己有用感を高める。
- ・各種調査の結果分析を活用した授業改善等の学力向上の取組をよりすすめる。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・主任会議や合同研修等の実施と内容、教職員の認識状況。
- ・児童生徒が交流する取組の内容とその成果。
- ・各校とブロック全体での学力向上の取組の結果と成果。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・PTAでの小中一貫教育校に向けた取組がすすんでいることを応援したいという意見が大多数であるが、小規模校問題の解決の最初として小小統合でいいのではという意見も一部ある。
- ・児童数生徒数が減っていることもあり、小中の連携はとても大切だと考えている。
- ・中学生が地域に迷惑をかけることはほとんどなく、地域では中学生は数が少ないとあってあまり目立たない。小学生の元気な声はよく聞こえる。小中連携はすすめてほしい。
- ・児童生徒の地域行事への参加等がしやすくなるよう、小中学校と地域行事の調整等を考えていくべきだろう。地域としてできることや協力してほしいことは、遠慮なく言ってほしい。

最終評価

| | |
|---------|--|
| | <p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・三校教務主任は連携して、情報交換や合同行事の企画等をすすめることができた。・小学6年生対象の中学校紹介・交流会は、小小連携の取組がみられ、中学校生徒会本部が充実した内容で企画実施できた。・ブロック全体の学力状況は、学校・学年・教科で向上のみられるものと厳しい状況のものとさまざまな結果になっている。 |
| 自己評価 | <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none">・年間を通して、三校校長会や教務主任会は定期的に開催して連携がすすんだ。・ブロック三校の教職員の小中一貫教育への意識やブロック児童生徒の共通理解がすすんできているが、つけたい力やそのための取組についてはより具体的なものが必要である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・小中合同研修会の開催ペースを維持し、内容を具体化してその後の各校・各教員の実践にむすびつけていく。・研究主任の連携をよりすすめ、学力向上を軸にした取組を発展させる。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・小中一貫教育や9年間で児童生徒を育てるという認識が、ブロック教職員に定着してきている。・ブロック内での授業参観等に参加や交流ができる工夫をして、教員の指導力向上を図る。 |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・地域行事に、小中学生が参加できるよう、これからも学校行事を調整してほしい。中学生の力を借りたい行事もあるので、引き続き協力をお願いしたい。・PTAが小中一貫校創設の決議をあげ、学校運営協議会への協力依頼があった。学校運営協議会としては、この決議を支持して一貫校創設に向けて学校を応援していく。 |